３　「地域協育ネット」のめざすもの

(1)　子どもたちの「生きる力」の育成

「地域協育ネット」は、子どもたちの幼児期から中学校卒業程度までの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するための仕組みであり、すでに述べたように、その目的の一つは、子どもたちの「生きる力」の育成です。

学校の教育活動などにおいて、地域の多様な教育資源（ヒト、モノ、コト）を積極的に生かすとともに、地域活動への参加を通して子どもたちの体験活動を充実させ、さらには、幼児期からの子どもの育ちや学びを地域全体で支えていくことが、子どもたちの「生きる力」を育むことにつながります。

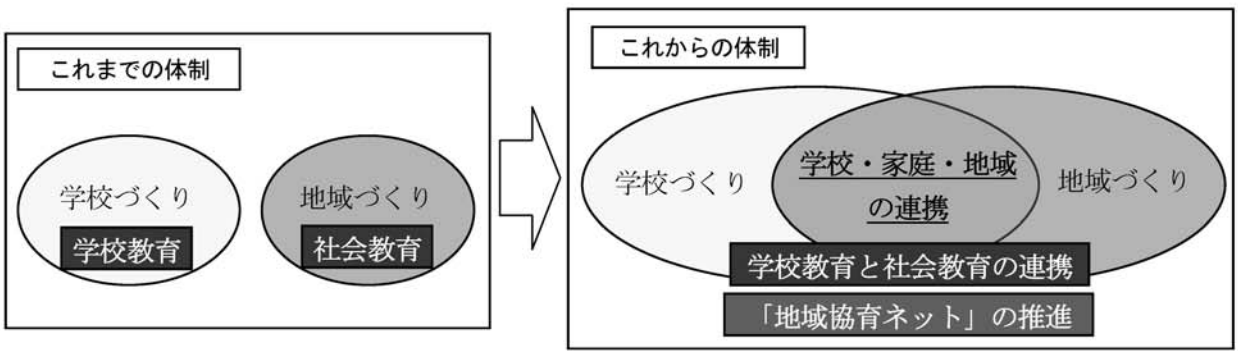
(2)　幼保・小・中の連携の促進

15年間の子どもの育ちや学びを地域ぐるみで支援するためには、まず、同じ中学校区内の幼保・小・中が目標を共有し、互いに連携し合うことが不可欠です。支援活動等を通して、ＰＴＡの交流が図られ、幼保・小・中の連携が強化された事例や、公民館の行事に小学生や中学生が参加することにより、小・中の連携が強化された事例もあります。

(3)　学校づくりと地域づくりの一体的な推進

学校においては、このような仕組みづくりを進めることにより、子どもたちの生活基盤の共通性や発達の連続性を視野に入れた学校運営がより確かなものになります。一方で、地域の人々が子どもたちにかかわることにより、子どもの成長とともに大人の成長も促し、さらには、子どもを介して地域の絆を強めていくことにもつながります。

このように、学校と地域が連携して仕組みづくりを行うことは、学校づくりと地域づくりを一体的に推進することになります。また、「学校がよくなれば地域がよくなる」「地域がよくなれば学校がよくなる」という相乗効果をもたらします。



(4)　家庭の教育力の向上

地域の中に仕組みをつくることにより、身近な地域で顔が見える関係が構築でき、孤立しがちな家庭に対しても、同じ立場で柔軟に活動できる人々の協力を得ながら、きめ細かな支援を行うことができやすくなります。